

# 26PW-am008

脳神経保護作用を有する carbazomadurin A, B の合成研究

○稗田 雄三<sup>1</sup>, 町支 臣成<sup>1</sup>, 寺本 佳織<sup>1</sup>, 古川 直樹<sup>1</sup>, 延廣 順子<sup>1</sup>, 日比野 俐<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>福山大薬)

【目的】 Carbazomadurin A (**1a**), B (**1b**)は 1993 年瀬戸らによって *Actinomadura madurae* 2808-SV1 から単離・構造決定されたカルバゾールアルカロイドで、抗酸化作用と脳神経保護作用を有することが報告されている。そこで今回、当研究室で開発したアレン中間体を經由するヘキサトリエン型電子環状反応を用いた carbazomadurin A, B の全合成の研究を行った。

【方法・結果】 7-methoxyindole-2-carboxylate を出発原料とし、5 工程を経て 4,7-ジ置換インドール合成 **2** を行った。さらに 3 工程を経て鍵化合物 **3** へ誘導後、TBAF 存在下、環化反応に付すことでカルバゾール **5** を得ることができた。続いて、2 工程を経てトリプレート体 **6** へと誘導後、ホウ酸ピナコールエステル体 **7** との鈴木・宮浦反応を行い carbazomadurin A (**1a**) の前駆体である化合物 **8** を合成することができた。現在、**1a** への誘導を検討中である。

